

オゾン水を活用し、高齢者施設の感染症を効果的に予防

特別養護老人ホーム りんどう麻溝はウォーターエージェンシーが開発したオゾン水生成器「UNIZONE (ユニゾーン)」を導入することで、感染症の予防に成果を上げている。その効果や特徴、実際に使ってみた感想などをレポートする。



Case Study

社会福祉法人 直源会
特別養護老人ホーム りんどう麻溝



不足がちで、知識や情報の共有が十分に行えず、1人の職員にかかる精神的負担が増大するというデメリットもある。

そこで同施設では職員の配置や勤務体制を抜本的に見直し、10人の利用者を1人の職員が担当する従来の体制から、2ユニット20人に対して3人体制での対応や、10人を2人で対応するなど、必ず複数の職員が同時に働けるようにした。介護のノウハウの共有がスムーズになるほか、常に仲間がいることで、不安を感じることなく安心して働けるようになったという。

りんどう麻溝は地域との交流を積極的に行い、開かれた施設であることを目指している。平日はほぼ毎日、地域の小・中学校や利用者の家族などのボランティアや、職員によるイベントを開催。利用者は音楽会や華道、書道、絵画クラブなどから、流しそうめん、お寿司バイキング、ケーキバイキング、屋外で行う宝探しまで、バラエティーに富んだイベントを楽しんでいる。

「10人という少人数のユニットを固定配置された職員が担当することで、利用者一人ひとりを尊重したきめ細かいケアを提供することができます」と直源会理事長、石川修子氏は語る。

ただ、大人数の利用者を複数の職員で担当する従来のやり方と違って、ユニットケアでは職員同士のコミュニケーションが

「個室に閉じこもるのではなく、様々な方々と交流することで社会とのつながりを感じていただけます。イベントに参加すれば自然に歩くのでリハビリにもなりますし、何より皆さん楽しんでおられます」(石川氏)

短時間で細菌・ウイルスを不活化 35℃の温水での利用も可能に

高齢者が利用する老人ホームにとって、感染症への対策は極めて重要だ。予防段階では、面会に訪れる家族やイベントなどに参加する外来者によって病原菌が持ち込まれないようにする必要がある。発生後は基本的に封じ込めを行うことになるが、りんどう麻溝が採用しているユニットケアは罹患者が出た場合でも、個室ごと、ユニットごと、フロアごとに対策を行えるため、封じ込めを行うことにも適している。とはいえ、終息するまでは面会の制限、イベントの中止をはじめ、生活に様々な制限が生じる。入所者が個室にこもって歩かないと体力が低下し、ストレスもたまってしまふ。同施設では予防に細心の注意を払っていたが、冬場には重篤には至らないものの数件の罹患が発生していた。そこで同施設はウォーターエージェンシーが開発したオゾン水生成器「オゾネス」を導入した。

オゾン水はオゾンに水を溶かしたもので、その強力な酸化力によって、感染症や食中毒を引き起こす様々な種類の感染の原因となる微生物やウイルスを短時間で不活化することができる。また、オゾン自体は自然に分解され人体に無害な水と酸素に戻るため安全性も高く、薬品などと異なり耐性菌を作らないのも大きな特長だ。今後、福祉・介護施設をはじめ、学校、医療機関、食品関連施設などでの活用が期待されている。

りんどう麻溝では2013年に外来者用の入り口から導入を開始。外来者の手洗い、うがいに使用され、翌年は感染症の発症者数が大幅に減少した。目覚ましい



北里大学医学部・
大学院医療系研究科
環境医学科学群環境皮膚科学
臨床医学科学群皮膚科学
講師 ICD
藤村 響男氏

実験で実証された病原菌の不活化効果 今後、幅広い用途が期待される

北里大学医学部、病態・診療系内バイオセーフティレベル2実験施設において行った実験によって、様々な種類の病原菌について、それぞれ1000万個を10ccのオゾン水の溜め水によって、5秒間で完全に不活化*できることが実証されました。オゾン水は分解してすぐに水と酸素に戻るため安全で、薬品と比べて使いやすいなどの利点が挙げられます。今後、オゾン水の温度を入浴可能なレベルまで上げることができれば、褥瘡(床ずれ)ケアや糖尿病のフットケア、皮膚感染症の予防などにさらに用途は広がっていくでしょう。

*寒天培地を用いた実験による

効果を上げたため、2014年には外来用1台、ユニットごとに1台、職員用1台と計14台が導入され、施設全体で感染症対策に活用されるようになった。

2015年10月には新型のオゾン水生成器「ユニゾーン」を導入。旧製品との最大の違いは従来のオゾン水生成器では困難とされてきた温水での利用を可能にしている点だ。「冬場は冷水での手洗いが辛い」という利用者の声をくみ上げて開発が進められ、35℃の微温水での利用が可能になった。「冷たくないのありがたい」「寒くなくても快適」と好評だという。

また、「ユニゾーン」は独自の電解法の採用により、薬品を使わず水道水のみでオゾン水を生成するため、水道水以外の添加物や不純物を含まない安全・安心なオゾン水を提供できる。さらに、「ユニゾーン」では従来品と同等の除菌能力を維持したまま、動作音の軽減を実現。病院や

老人ホームなどの施設で、夜間でも音を気にすることなく使用することができる。そのほか本体の小型・軽量化によって、卓上やシンク下、壁掛けなど設置における自由度も大幅に向上した。

「誰でも手軽に使えて、短時間で除菌できるところがとても気に入っています。家族の方、見学者の方、イベントに参加する地域の方々も安心して施設に入っていたけるようになりました。今後も『ユニゾーン』を活用することで感染症を一次予防の段階で食い止めたいですね。そのためにも、職員、利用者に正しい使用方法を徹底していきたいと考えています」(石川氏)

安全・安心を確保しながら、地域に密着し、積極的に様々な人々との交流を図っていく。身体と心の健康を増進し、よりその人らしく生活できるよう支援していく。りんどう麻溝が目指す理想の施設運営を「ユニゾーン」は確実にサポートしている。

一人ひとりを尊重したケア 地域の方々との積極的な交流

社会福祉法人 直源会 りんどう麻溝は神奈川県相模原市にある特別養護老人ホーム。木造建築の温かみを生かした施設内はロビー、廊下、個室ともゆったりとしたつくり

で、利用者とその家族からの評判も上々だ。

利用定員は入居110人、ショートステイ10人で、全室個室となっている。同施設は1ユニット10人からなるユニットケアを実施し、10人が家族のように生活できるようにユニットごとにリビングを用意。個室を中心とした私的な時間と、リビングでの社会性を兼ね備えた生活の場を提供している。

「10人という少人数のユニットを固定配置された職員が担当することで、利用者一人ひとりを尊重したきめ細かいケアを提供することができます」と直源会理事長、石川修子氏は語る。

ただ、大人数の利用者を複数の職員で担当する従来のやり方と違って、ユニットケアでは職員同士のコミュニケーションが



社会福祉法人 直源会
理事長
石川 修子氏

お問い合わせ

Agency
Water
株式会社ウォーターエージェンシー

株式会社 ウォーターエージェンシー
〒162-0813 東京都新宿区東五軒町3-25
水とくらしの事業部 担当/田中 山本

03-3267-5005

http://www.water-agency.com